

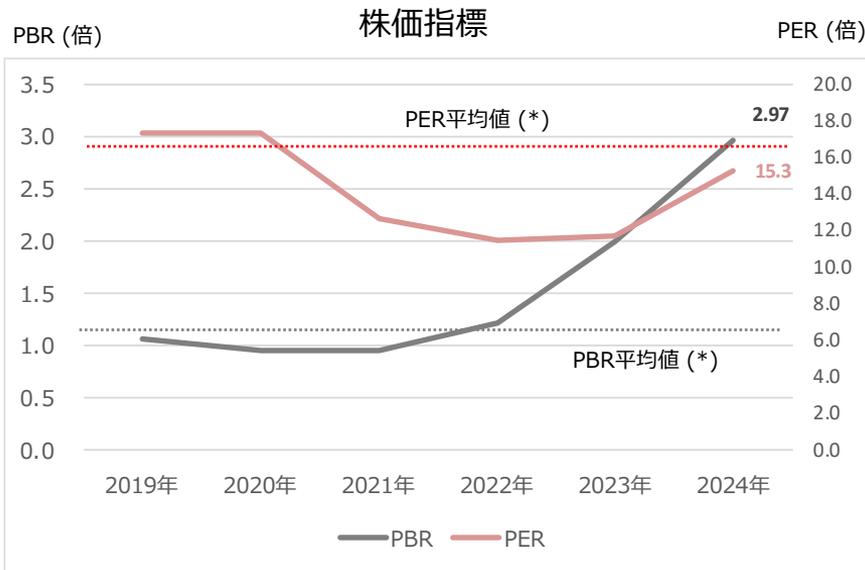
「資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応」について

2025年3月

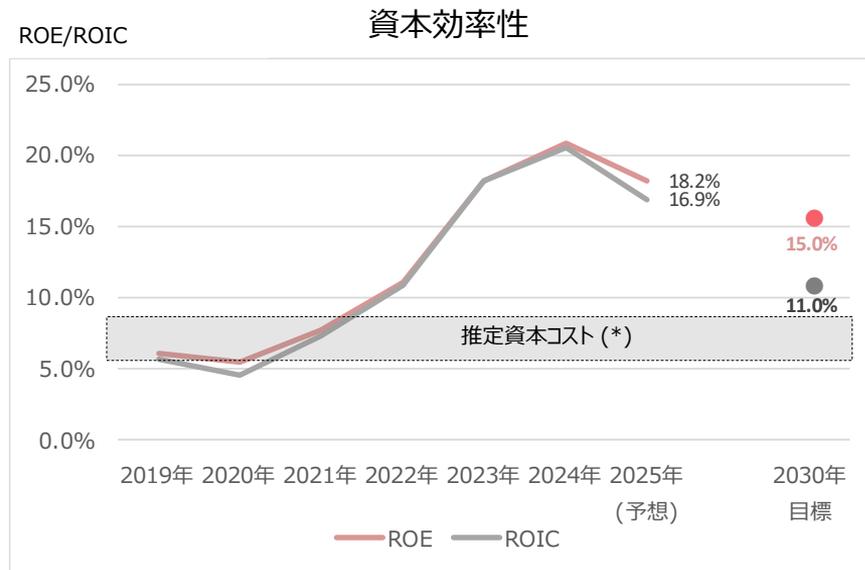
カンロ株式会社



現状評価・分析



* 出典：東京証券取引所 スタンダード市場 食品品セクター (2024年12月)



* CAPMをベースに、流動性リスクを考慮して試算した加重平均資本コスト (WACC)

- 株価指標：PERが業種別平均値を下回り、上昇余地がある→中期経営計画2030推進による訴求
- 資本効率性：資本効率性について現状からの低下に懸念の声もある→対話推進による資本コストの低減

従来からの取組み：ROIC経営の推進

企業価値向上に向けたROIC経営推進で資本効率を改善

- KanROICツリーによるKPI管理：図1
- B/Sマネジメント（政策保有株式縮減）：図2
- 資本コストを基準とした投資採算基準運用
- 事業ポートフォリオマネジメントへの活用

図1

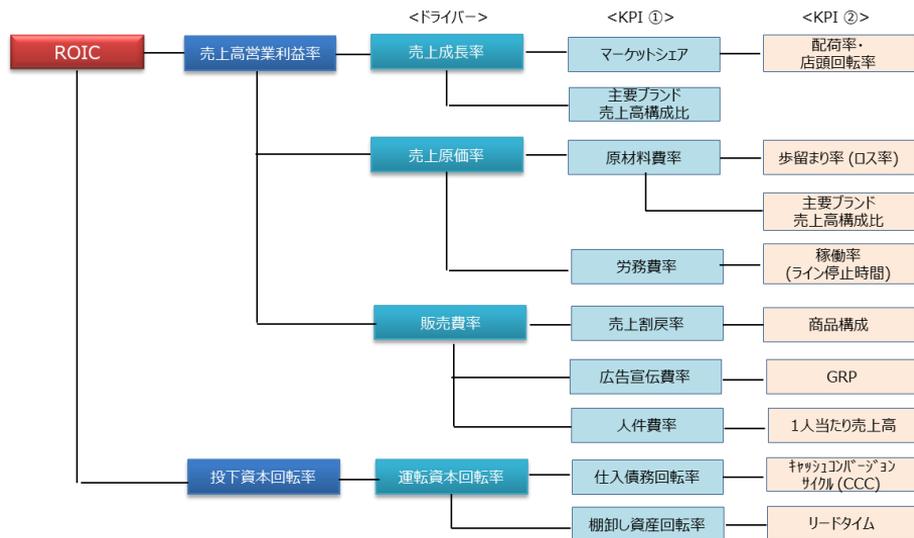
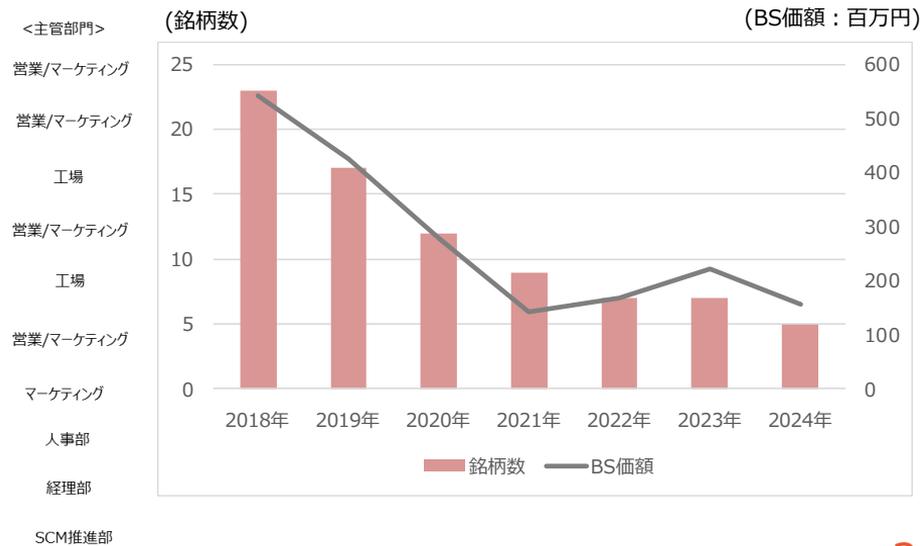
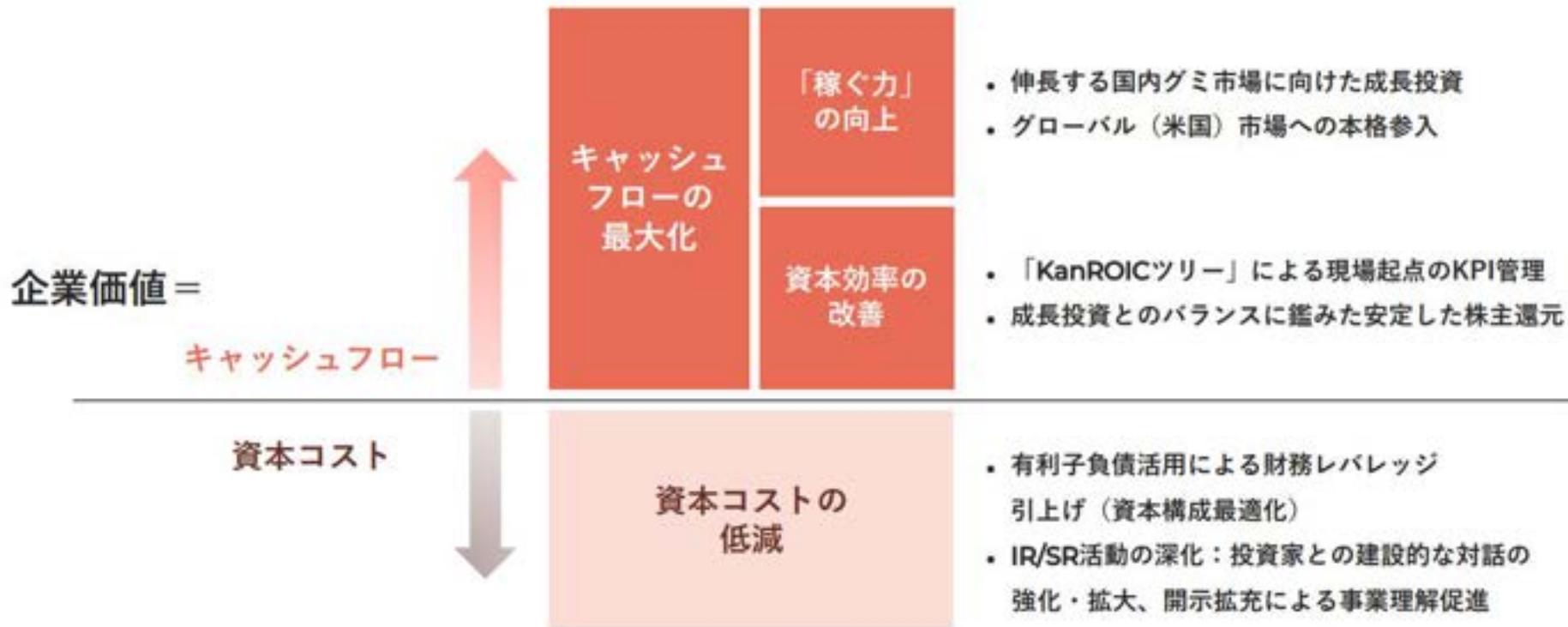


図2



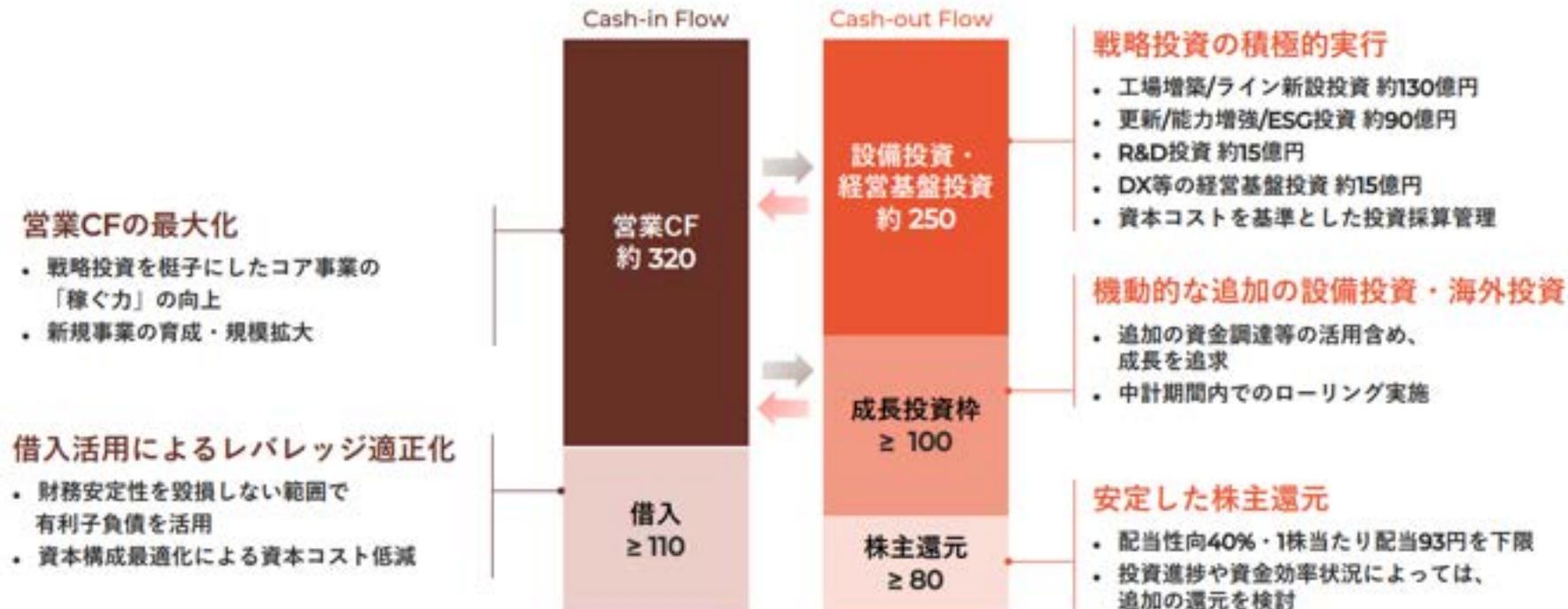
中期経営計画2030：成長に向けた財務戦略①

ROIC経営によるCFの最大化と資本コスト低減で企業価値を向上



中期経営計画2030：成長に向けた財務戦略②

ゴミライン新設等による営業CFの最大化で更なる成長投資を加速



資本市場との対話

対話の強化で成長性の理解促進と経営の高度化を目指す

主要IR施策

個人投資家向け

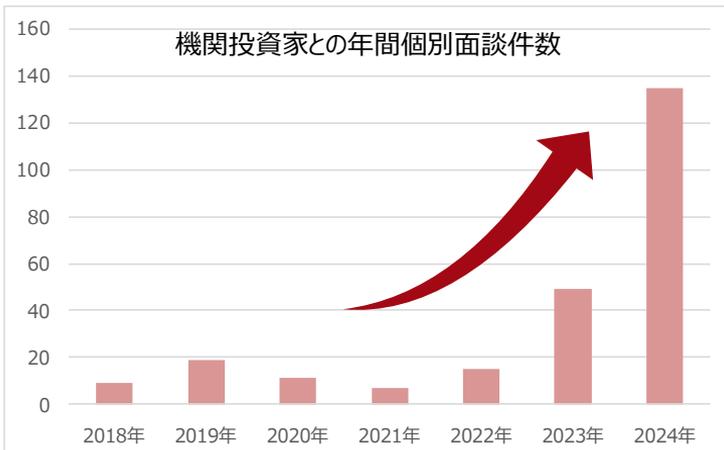
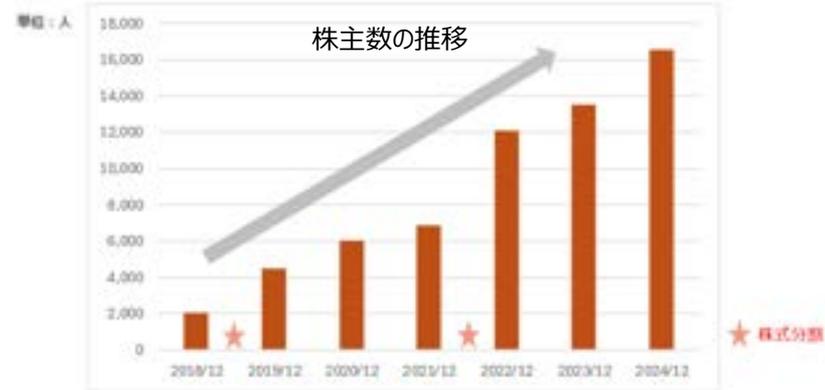
- ・ 会社説明会開催
- ・ 株主通信発行 (予定)

国内機関投資家向け

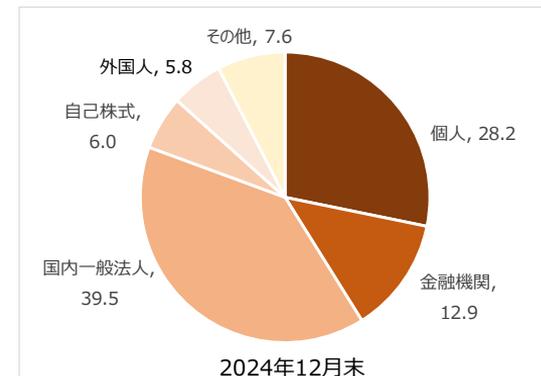
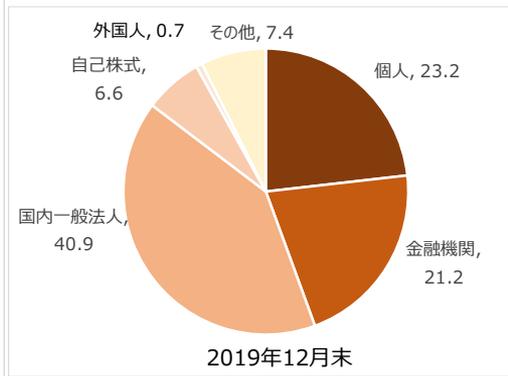
- ・ 個別面談 (CEO/CFO/IR部門)
- ・ 決算説明会開催 (CEO/CFO 登壇)
- ・ IR Day 開催 (予定)

外国人投資家向け

- ・ 英文開示
- ・ 海外ロードショー (中長期目標)



株主構成の変化 (%)



資本市場との対話例 ①

成長ドライバーとなるテーマで資本市場との対話を促進

テーマ	投資家からの質問	当社回答
当社売上拡大	ここ数年の売上拡大要因はゴミか。販売好調だった要因は何か。	ゴミを当社の成長エンジンと位置付けて、2019年にゴミの2ライン目を立ち上げたことでゴミの生産体制が整った。コロナ禍でゴミ市場の環境が大きく変化したが、当社が市場拡大のけん引役を果たすとともに売上を大きく伸ばすことができた。
2030年財務数値目標	目標数値の考え方。	ゴミ新ラインなどへの大型投資・更なる成長投資を実施し、効率性指標は足許より低下するが、中長期的目線での企業価値の飛躍的な拡大を目指している。2030数値はコミットメントとしてのレベル感で設定している。
米国市場進出の理由	米国ゴミ市場へ参入とのことだが、この事業判断のきっかけは何か。米国市場におけるマーケティング等で何か手応えがあったのか。	前中期経営計画から「事業領域の拡大」のひとつとしてグローバル事業を掲げて、当社のゴミを海外に広げていきたいという思いがあった。その中で米国市場に狙いを定めた要因は、その市場規模が魅力であるとともに、現地調査を進める中で当社の商品が受け入れられると判断したためであり、今後、米国事業へのチャレンジを加速していく。
米国市場の収益性	米国市場での商品価格設定や国内事業と比べた際の利益水準は。	価格設定は日本より高くなる。現状、ピュレゴミは3~4ドル程度を想定している。今後の数量の伸びを勘案すると会社としての利益貢献は先になると見ている。売上だけでなく、利益としても会社全体にプラスとなるよう様々な施策等を検討していく。

資本市場との対話例 ②

資本市場からの要望への対応を促進

※○：対応実施 △継続検討

分類	項目	対応 ※	内容	開示資料	備考
開示	事業別 売上高・利益	○	各事業の売上実績・今期 予想・中期目標を開示	中期経営計画2030 PowerPoint プレゼンテーション	利益開示は今後検討
	商品カテゴリー別 売上高	○	実績値を飴・グミの区分で 四半期単位で開示	決算補足説明資料（補足資料1） 00.pdf	将来予想値は今後検討
	ブランド別 売上高・利益	△	継続検討	—	主力ブランド小売販売金額前年比 を参考情報として開示 2024年12月期決算説明会資料 PowerPoint プレゼンテーション
	将来市場予測	○	飴・グミともに当社試算予 測を開示	中期経営計画2030 PowerPoint プレゼンテーション	—
	スクリプト	○	決算説明会資料の スクリプト開示	決算説明会資料 PowerPoint プレゼンテーション	2023年12月期決算より開始
施策	工場・研究所見学会	△	継続検討	—	—